

評

◎寄宿舎日記 文學士 中村枯林著

京橋新肴町 晴光館

四六形厚表紙二二四頁參拾八錢

樂しき中學寄宿舎一年間の生活を描きしもの中に多くの唱歌を挿めり畫學會の記に曰く

十九日 金曜

この日放課後談話室に畫學會を開いた、出品總數百三十枚、その内畫の先生の出
品が十枚、舎生のは八十枚ばかり、あ
とは學校の通學生の出品である、同じ五
年級の通學生の木村君と舎の參一さんは
兩大關である、(參一さんは沈黙家だが
顔に似合はず畫も上手、ことに音樂がう
まい、人は見掛によらぬとは參一さんか
ら始まつた諺ぢやあるまいかしら)木村
君の人物が三枚みんな水彩畫で輕らく畫
いてある、參一さんは風景畫が御得意で
田園の景色がうまいが何にしる畫の先生
のは本職だけあつて何んとなく狎れたも
のである、僕の出品の風景畫三枚、手並か
ら番をつけたら中程より下であらうが、

畫の先生が見に来られて僕の畫のある方
に行かれるから僕のを見る人だと、遠
くから覗んでゐると木村君のをつくづく
みて僕のものには一瞥を與へられたのみで通
り過ぎたので、がっかりした。

問に答ふ

注 長文及水彩畫に無關係のものは御斷り。
◎印は編者の答、投票の要點のみを掲ぐ

- 一 東京の各洋畫研究所は少しも畫の素
養なき者にも入學を許すや 二 専門家とな
るに墨繪を學ぶに鉛筆、木炭孰れを可とす
るや 三 極初歩より水彩畫の一斑を研究す
るに何年を要するや 四 將來師に就かんと
する準備として鉛筆畫の獨習をなすも害な
きや(神戸MO生)◎一 入學を許す二 兩
方共必要なり、但研究所にては木炭畫を教
ゆ 三 畫の修業に年限なし、併し勉強して
やれば四五年にして一通りの技術は學び得
べし 四 害なし◎一 印象派とは何か二
繪具は佛國製と英國ニュートン製と何れが
上等なりや 三 日本にて繪具の製造は出來
ぬか 四 日本製の鉛管入は一本何程なりや
五 大下先生御所持の繪具は何處の製造品

なりや(二戸、TT生)◎一 主義は自然派
に近きもので、描法はボツ／＼の點のみで
描いたり又は色をパレットに混和せず其儘
畫面につけてある烈しき發色を得る等の手
段で、配色を詳明にし、同時に空氣、光線
といふやうなことに重きを置くなり此派で
有名な人は佛人マ子氏である二 佛製にて
もよき物あれど日本にて賣るものはニユー
トン製の方よし三 日本製繪具は現今にて
は一二種を除くの外使用に耐えず四 チュ
ーブ入ある事をきかず五 英國のニユーマ
ン製を多く用ふ■九月開校の水彩畫研究所
は午前午後課目は別なりや(赤阪、吉田)課
日は同一なれどモデルは異にする筈、相談
中につき詳細は規則發表迄待たれたし■枋
木氏は會員なりや(幹雄)◎否■僕は繪のと
り放しはせぬ多數の爲返信漏と思ふ住所氏
名をば一報あれ(朽木春翠)■朽木氏より返
信なし不都合と思ふ(安積幹雄)